＜今日の説教のポイント　テモテへの手紙Ⅰ２章８節～３章１節 ＞

１ 聖書全体の中でも一番不可解に思える個所。受け入れられる？

パウロは女性に対してこんな考え方をしていたのだろうか、と思わされる個所です。しかし、こんな内容の個所は受け入れられないと思うのは早すぎます。その理由をお話します。

２ 女は子を産むことによって救われる？？　本当の意味は深い！

最後の「婦人は…子を産むことによって救われます」(15)がひっかかります。しかし、原文では「子」に定冠詞がついており、ある一人の子イエス・キリストを考えるべきなのです。パウロは、人は人間が行う何かによって救われることはない、神のひとり子イエス・キリストによって救われるのだという福音を伝えたのですから、女性からイエス様が生まれたことを考えているのです。なぜでしょうか？

３ 当時の状況を知る必要あり。しかし今の世にもあてはまる内容！

当時、この話の舞台エフェソは神殿娼婦を置くアルテミス神殿がある町であり、その影響が教会にも及んでいたことがⅡテモテ 3:1-9 に記されており、中でも性的な誘惑をもって信仰者の家庭を混乱させる女性たち、彼らを操る男性たちがいたことが非難されています(3;6)。女性は外的な飾りでなく、内的な飾り、「善い業で身を飾る」(10)ようにと繰り返し言われているのには、このような問題が起こっていたことを考えなければなりません。13-14 節の、アダムとエバの後先、だまされるだまされないの妙に思える話も、女性たちを高く評価してたパウロ（ローマ 16:1-4 福音を宣べ伝える者として）から考えるべきで（全体から部分）、創世記 3 章の話から、女性をだまし操る男に蛇を見る時、パウロが女性を軽んじ蔑視していると考えるのとは逆の内容が浮かび上がって来ます。聖書に書かれたことを簡単に決めつけずです。

４ 教会で祈る者は怒り赦せないではならない。男女関係ない教え。

実は 2 章は教会の公の場（特に礼拝）での祈りやあるべき姿が取り上げられており、次の 3 章では長老や執事のあるべき姿に移っていきます。最初に出て来る「男は怒らず争わず…祈るべきです」(8)もそうであり、イエス様が教えられた内容（マルコ 11:25、マタイ 5:21-26、6:12）に一致しています。今、私たちは、男も女もなく、主によって罪赦された者として生きて行こうとしている者たちなのです。